

書いてみよう、自分のこと

第17回文窓賞（2023年度）

学生レポートコンクール

主催 文窓会 -- ぶんそうかい -- (神戸大学文学部同窓会)

- I. 募集内容 …あなたが神戸大学に入学し、学生生活においてチャレンジしようとしていること、また、なしえたもの(研究、勉学、スポーツ、クラブ活動、ボランティア、趣味など)、その他、広く社会に目を向けたものなど、自由にテーマを選び、あなたの学生生活を表現してください。
(ただし、未発表のものに限ります。)
過去の応募作品は文窓会ホームページで閲覧できます。
文窓会 HP <https://www.bunsokai.com/>
- II. 応募形式 … 電子データ (word ファイル等のテキストファイル) にて応募。(随時応募受付)
応募用メールアドレス bunsokai@gmail.com
字数 4000 字程度。用紙 (A4) を縦にして横書き (横 40 字、縦 40 行)
*メール本文と作品の冒頭の 2 か所に氏名、ふりがな、専修、学年、学番を記入。
作品はタイトルを付け添付ファイルにて応募してください。(応募後の連絡に使えるメールアドレスより送付してください。)
- III. 応募資格 …文学部の学部生、および大学院生。どちらも文窓会に入会済みの方(賞金は入会費より拠出されます)
- IV. 応募締切 …2023年7月23日(日) 深夜12時締切
- V. 賞金 … 優秀賞 2名、5万円と表彰状(佳作、新人賞にも表彰状あり)
佳作 若干名、2万円
新人賞 1名、1万円(受賞資格は、今年度の新入学部生であること)
参加賞 3千円
- VI. 選考方法 …選考委員(大学教員、文窓会役員)による選考。
- VII. 選考基準 …以下の観点から評価し、選考します。
● 個性的な学生生活の目標や体験、自分なりの発想・思想が表現されているか。
● その目標・活動の内容や行動力、あるいは、発想・思想の独創性や深さに、社会を納得させる力がどれほどあるか。
- VIII. 発表 …9月中旬までに入賞者に通知。10月28日(土)のホームカミングデイにて表彰式を行います。当日、受賞者には応募作品についての短いスピーチをお願いすることがあります。
- IX. その他 …◆受賞者への連絡のため、9月中は確実に連絡が取れるようにしておいて下さい。
◆受賞作品は、同窓会誌“文の窓(ふみのまど)”と受賞作品集、同窓会のホームページ等に掲載します。なお、応募作品の著作権は文窓会に属するものとします。
◆引用する場合、引用箇所を明確にし、引用元を記載してください。(報告のない無断引用が発覚した場合、当該作品は審査の対象外とし、授賞後であれば授賞を取り消すので、注意してください。)

以上

第16回文窓賞2022年 学生レポートコンクール結果発表

対面授業が本格的に再開されましたが、ウィルスは自在に形を変え感染を拡げています。そんな中、応募された10作品はそれぞれ興味深いものでした。選考委員による審査の結果、受賞作として下記作品が選ばれました。

優秀賞（賞金5万円）

『絵』とことば、読書について 田中誠士（1回生）

エンデの『はてしない物語』を読み返した記憶から、読書とは何かを問う。その時々自分のフィルターを通して、「絵」となって取り込まれ、血肉となり成長の糧になる。実益ではない。「絵」という概念で読書を語り、大学で学ぶ意味を追い求める。みずみずしい感性があふれる作品だ。世に蔓延る病巣から目をそらし、功利性や効率性を追いつける現代の中で、なぜ文学を学ぶのか、考え続けてほしい。大きな意味があると思われる。

優秀賞（賞金5万円）

「皇帝の使者」 四ツ橋明里（ドイツ文学3回生）

興味を抱かせる書き出しだ。久しぶりの対面授業にとまどう筆者。自らの生き様について、心の中にあふれる葛藤を、カフカの『皇帝の使者』を引用しながら、紙面にぶつけている。悩み、考え、行動することで、使者が届けようとする「大切なメッセージ」が何なのか、少しずつ見えてくるのではないだろうか。

優秀賞（賞金5万円）

「Don't think. Just do.」 薄まなみ（英米文学3回生）

「トップガン」の続編を心待ちにしていた筆者は、日米学生会議への参加で大きな影響を受けた。参加生たちとの討論や研修での学びから、やりたいことを見出した。それは、安全保障を深く勉強し、安全保障にかかわる仕事だ。二年前、筆者が受賞した時に述べたことを思い出す。「彼女は、長い人生の旅で、いろいろなものと遭遇しながら成長していく予感がする」。これからも文学部の maverick(異端者)として、大いに羽ばたいてほしい。

佳作（賞金1万円）

「学生ボランティアの意義と可能性」 中原幸子（国文学3回生）

『現実逃避』もわるくない 米谷実紗（国文学3回生）

選考委員長特別賞（賞金1万円）

「書くことによって映画を見る」 八坂隆広（芸術学博士2回生）

既定の賞の獲得には至らなかったが、鋭い観察眼を持ち、独自の視点で書かれているこの作品に、選考委員長特別賞を与えたい。物事には様々な見方、視点があるのだと、凝り固まった右脳に少しカツを与えてくれた作品だ。

選考を終えて

今年は、テーマ、文章の構成、物を見る視点等において、個性的な作品が見られました。不安定な学生生活が続きますが、平常でないときの方が思考が広く、深くなるのかもしれませんが。

ある作家の言葉です。「書くこと…自分も含め、人間理解の一端に迫るのに、これほど役に立つ分野はありません。作品は成長の道程のおおきなよすがとなるでしょう」書き続け、新たな発見をしてほしいと願っています。

（文責 選考委員長 西川京子）

選考委員

長坂一郎研究科長（心理学 教授） 白鳥義彦副研究科長（社会学 教授） 濱田麻矢副研究科長
（中国・韓国文学 教授） 武藤美也子 三宅征彦 廣野幸夫 吉田浩次 中川伸子 中畑寛之 津田薫 梅村
麦生 西川京子